

平成18年度 定期作況報告

(10月20日現在)

北海道立中央農業試験場

水稻の部

水田・転作科(岩見沢市)

I 気象概況

9月下旬：平均気温は平年より0.1℃低く、降水量は平年比34%、日照時間は平年比141%であり、少雨、多照に経過した。

10月上旬：平均気温は平年より1.9℃高く、降水量は平年比46%、日照時間は平年比114%であり、高温、少雨、多照に経過した。

10月中旬：平均気温は平年より0.9℃低く、降水量は平年比147%、日照時間は平年比106%であり、低温、多雨に経過した。

以上、1ヶ月を通じ気温は平年より0.3℃高く、降水量は平年比67%、日照時間は平年比121%であり、少雨、多照に経過した。

9月下旬～10月中旬気象表

項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	19.9	19.6	0.3	19.0	17.3	1.7	14.6	15.5	△ 0.9	17.8	17.4	0.4
最低気温(℃)	9.7	10.2	△ 0.5	10.4	8.3	2.1	5.2	6.0	△ 0.8	8.4	8.2	0.2
平均気温(℃)	14.8	14.9	△ 0.1	14.7	12.8	1.9	9.9	10.8	△ 0.9	13.1	12.8	0.3
降水量(mm)	16.0	46.6	△ 30.6	22.5	48.9	△ 26.4	46.5	31.7	14.8	85.0	127.2	△ 42.2
日照時間(hr)	74.7	52.9	21.8	52.6	46.2	6.4	52.0	49.0	3.0	179.3	148.1	31.2

注) データは「アメダス岩見沢」を使用。平年値は平成8年～17年10ヶ年平均値を農試が算出し使用。

最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値を用いた。

II 作況

水稻 作況：やや良

事由：成熟期は「きらら397」で9月27日、「ほしのゆめ」で9月21日となり、平年に比べそれぞれ8日、3日遅れた。そのため、精籾重は「きらら397」「ほしのゆめ」とともに平年に比べ13%上回ったが、精玄米重は「きらら397」で8%上回り、「ほしのゆめ」では逆に3%下回った。2品種の平均でみると、収量は平年比102%であった。また、千粒重は「きらら397」「ほしのゆめ」とともに平年よりわずかに軽く、屑米重は平年の2倍以上とかなり重かった。

以上より、現在の作況はやや良である。

品種名	栽培方法	成熟期(月.日)			穂数(本/m ²)			一穂籾数(粒)			稔実歩合(%)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397	中苗紙筒	9.27	9.19	8	629	674	△ 45	53.9	48.5	5.4	82.2	85.8	△ 3.6
ほしのゆめ	中苗紙筒	9.21	9.18	3	748	695	53	45.8	46.0	△ 0.2	86.2	89.2	△ 3.0
ななつぼし	中苗紙筒	9.26	-	-	671	-	-	64.8	-	-	79.6	-	-

品種名	栽培方法	精籾重(kg/a)			精玄米重(kg/a)			屑米重(kg/a)			千粒重(g)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397	中苗紙筒	78.6	69.2	9.4	57.3	53.3	4.0	8.6	3.9	4.7	22.9	23.1	△ 0.2
ほしのゆめ	中苗紙筒	77.6	68.7	8.9	49.5	51.0	△ 1.5	12.7	5.8	6.9	22.0	22.1	△ 0.1
ななつぼし	中苗紙筒	80.4	-	-	58.6	-	-	9.0	-	-	22.3	-	-

注1) 平年値は前7ヶ年中、平成16年(最豊)、15年(最凶)を除く5ヶ年平均

注2) 本年より「ななつぼし」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注3) 耕種概要

土 壤：細粒グライ土

施 肥：高度化成472全層施肥 N-P₂O₅-K₂O=8.0-9.7-6.9 kg/10a 堆肥1,500kg/10a

播 種 量：中苗紙筒=180cc/箱 成苗ポット=35g/箱 移植方法：手植え

栽 植 密 度：30×13.3cm 25株/m² 4本植え 反 復：2

注4) 篩目は1.9mmを使用した。また精玄米重、屑米重および千粒重は15%水分換算値である。

畑作の部

畑作科(長沼町)

I 気象概況

9月下旬：気温は平年よりやや低かった。降水量は少なく、日照時間は多かった。

10月上旬：気温は平年より高かった。降水量は少なく、日照時間はやや多かった。

10月中旬：気温は平年よりやや低く、降水量と日照時間は平年並みであった。

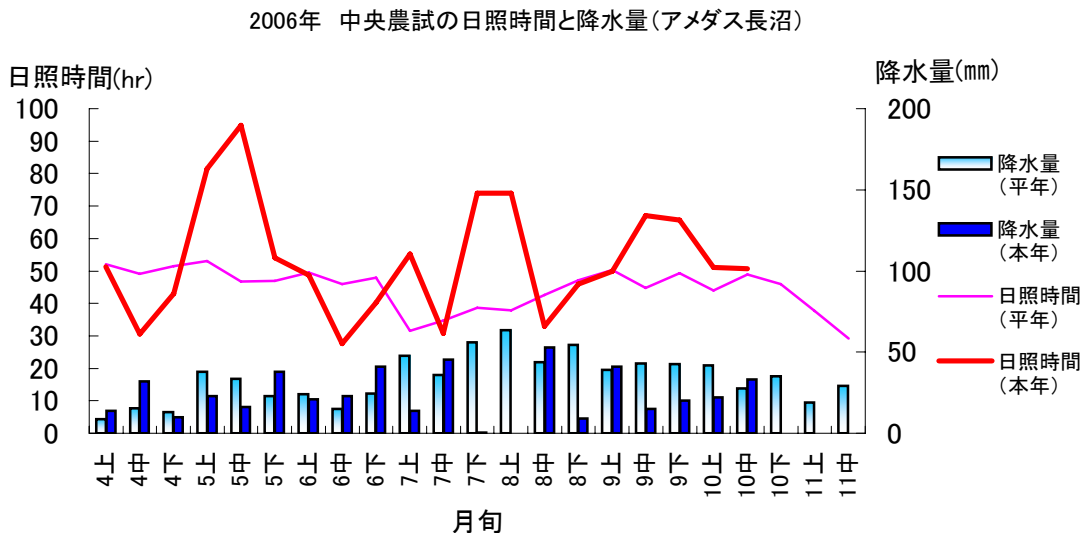
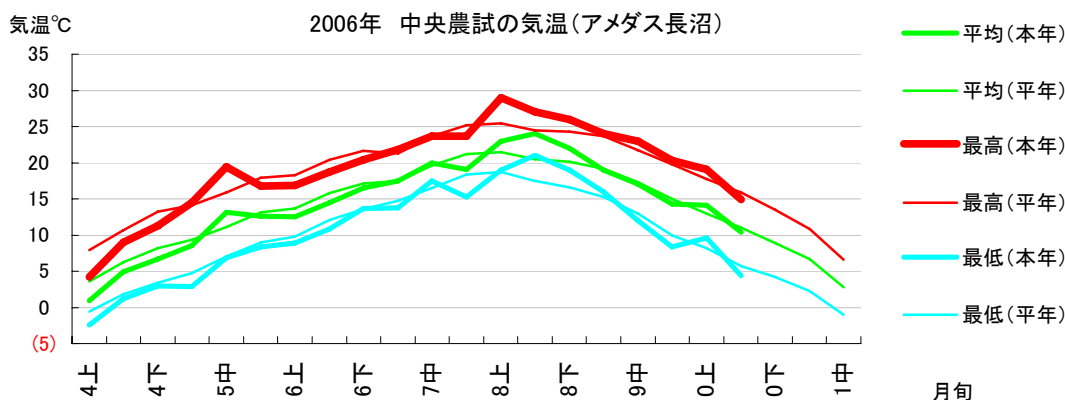
以上、1ヶ月を通じてみると、気温は平年並みで、降水量は少なく、日照時間は平年並みであった。

9月下旬～10月中旬気象表

項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(°C)	14.3	15.0	△0.7	14.1	13.0	1.1	10.4	11.0	△0.6	12.9	13.0	△0.1
最高気温(°C)	20.3	19.8	0.5	19.1	17.7	1.4	14.9	15.9	△1.0	18.1	17.8	0.3
最低気温(°C)	8.4	10.0	△1.6	9.6	8.2	1.4	4.4	5.7	△1.3	7.5	8.0	△0.5
降水量(mm)	20.0	42.8	△22.8	22.0	41.7	△19.7	33.0	27.6	5.4	75.0	112.1	△37.1
降水日数(日)	2.0	3.9	△1.9	4.0	4.3	△0.3	4.0	3.5	0.5	10.0	11.7	△1.7
日照時間(hr)	65.6	49.4	16.2	51.7	44.0	7.7	50.7	49.0	1.7	168.0	142.4	25.6

注1) データは「アメダス長沼」を使用。平年値は平成8年～17年の確定値を10年間農試で平均し、本年値は平成18年の確定値を用いた。

注2) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値を用いた。



II 作況

1. 秋まき小麦(平成18年播種) 作況：やや不良

事由：出芽期は8日遅れの9月28日であった。また、出芽後の気温もやや低温で湿潤傾向に経過したため生育の進展は緩慢で、草丈及び茎数は平年を下回っている。

以上により、現在の作況はやや不良である。

品種名	播種期(月.日)			出芽期(月.日)			草丈(cm)			茎数(本/m ²)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ホクシン	9.21	9.14	7	9.28	9.20	8	17	24.2	△ 7.2	473	997	△ 524
ホロシリコムギ	9.21	9.14	7	9.28	9.20	8	16.8	25.2	△ 8.4	543	893	△ 350

注1) 平年値は前7か年中、最凶(H12年)、最豊(ホクシンH15、ホロシリH16)を除く5か年平均(収穫年度)。

2) △は平年より早、短、少を表す。

2. 大豆 作況：やや不良

事由：成熟期は平年に比べ5日遅かった。7月下旬～8月上旬の干ばつの影響により、中生の「ツルムスメ」では、着莢数は平年比92%と少なかったが、その後順調に登熟したことから、一莢内粒数と百粒重はほぼ平年並であった。このため子実重は平年比95%の326kg/10aとなった。

晩生の「ユウヅル」は、干ばつ後の降雨と好天により2次花房の着莢により着莢数は平年並となった。一方、一莢内粒数は平年比81%とかなり少なかったが、登熟期間が順調に経過したことから、百粒重は平年より大きくなった。このため子実重は平年比96%の339kg/10aとなった。なお裂皮の発生が多く、品質の低下が懸念される。

以上により、現在の作況はやや不良である。

品種名	成熟期(月日)			主茎長(cm)			主茎節数(節)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ツルムスメ	10.04	9.29	5	57.3	55.5	1.8	12.8	12.0	0.8
ユウヅル	10.19	10.14	5	66.5	83.0	△ 16.5	16.0	15.6	0.4
トヨムスメ(参考)	9.30	9.27	3	60.9	60.9	0.0	11	10.2	0.8
スズマル(参考)	10.01	10.01	0	67.9	72.4	△ 4.5	15.3	14	1.3

品種名	分枝数(本/株)			着莢数(莢/株)			一莢内粒数(粒)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ツルムスメ	7.4	6.1	1.3	49.3	53.7	△ 4.4	1.84	1.81	0.03
ユウヅル	6.2	3.7	2.5	58.6	57.1	1.5	1.52	1.87	△ 0.35
トヨムスメ(参考)	5.5	6.3	△ 0.8	59.4	68.2	△ 8.8	1.76	1.80	△ 0.04
スズマル(参考)	11.9	9.4	2.5	122.6	119.7	2.9	2.30	2.36	△ 0.06

品種名	子実重(kg/10a)				百粒重(g)		
	本年	平年	比較	平年対比(%)	本年	平年	比較
ツルムスメ	326	344	△ 18	95	46.7	45.8	0.9
ユウヅル	339	354	△ 15	96	45.0	43.2	1.8
トヨムスメ(参考)	352	391	△ 39	90	41.8	39	2.8
スズマル(参考)	362	326	36	111	16.3	14.6	1.7

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、16年(最豊)を除く5か年平均。

ただし、トヨムスメ、スズマルは、前4か年の平均を平年とし参考値を示す。

3. 小豆 作況：不良

事由：成熟期は平年より5日早かった。開花後の高温干ばつによる着莢障害のため着莢数は平年を大きく下回り、子実重は著しく平年を下回った。平年に比べ百粒重はやや軽く、屑粒率は少なかった。以上により、現在の作況は不良である。

品種名	成熟期(月日)			主茎長(cm)			主茎節数(節)			分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
エリモシヨウズ	9.03	9.08	△5	44	62	△18	12.7	13.0	△0.3	4.4	4.0	0.4

品種名	着莢数(莢/株)			一莢内粒数(粒)			子実重(kg/10a)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比(%)
エリモシヨウズ	35.5	50.0	△14.5	6.00	6.00	0.00	162	307	△145	53

品種名	百粒重(g)			屑粒率(%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
エリモシヨウズ	12.4	13.0	△0.6	4.5	7.0	△2.5

注) 平年値は前7か年中、平成12年(最凶)、15年(最豊)を除く5か年平均。

5. 中央農試作況報告について

平成13年度より、すべての作物で土壌物理性・排水性が改良された基盤整備後の圃場を使用している。当報告は、中央農業試験場のほ場において行った生育調査について、調査時点における値を中央農業試験場の平年値と比較したものであり、当該管内の作況を代表するものではありません。